

山行番 NO. 1640・第一春山合宿

日時 2015. 04. 24 (金)＝第一日目

山域 唐松岳 (2696m)

コース 下土狩発4:00ーゴンドラ8:00ー八方池山荘発8:50ー下の樺9:47ー丸山10:56
ー唐松山荘11:38ー唐松岳12:00ー八方尾根頭(昼食終了)12:45ー八方池山荘14:
12ー根知「ホワイト・クリフ」(泊)

標高差 上り 八方池山荘約1850m～唐松岳2696m＝約846m
下り //

参加者 L 後藤、小松、会計・浜道、掛橋

今回の春山合宿二泊三日は、天気予報で雨がなく、全国的に晴れ。気温も上昇するとのことで、気持ちも晴れやかだった。4月は雨続きで、太陽の恵みをあまり受けていない。気温も低めで桜も開花から長く花をつけていた。

早朝4時出発。中央自動車道に上がる頃、すっかり明るい。山梨ではまだ桜が見られる。長野自動車道、安曇野インターで下りる。金曜日のせいか車も少なく快適だ。ただ、有料道路代は平日の為少々高めだ。

147号線を北上。仁科三湖(青木湖、中綱湖、木崎湖)を通り過ぎ、白馬八方尾根スキー場ゴンドラ駐車場に7:30到着。5/24～11/3の土日祝日と夏場は600円だが、今日は無料。スキー客で賑わっていた。

最初のゴンドラリフト「アダム」は8時営業開始。最終リフトは16時00分。スキー客に紛れながら並び乗車した。うさぎ平テラス下車。次のリフトと乗り継ぎ、八方池山荘に8:48到着。

夏道と雪が混在している八方池山荘(1820m)付近は風があり寒い。樹林も少ない。上着を着込んで、ストックと夏靴で8:50出発。雪もザラザラでかき氷より粗い冰雪だ。蹴りながら踏みしめる。

暫く行くと、しっかりした木の階段が山の斜面を這い上がっている。見通しが良いのでまともに風を受ける。7分程上がると、八方山ケルン(1974m)が見える。高さが5m位のコンクリートで固められた塔だ。過去に遭難事故がありそれを教訓にこのケルンがあるという事をCLが教えてくれた。

真冬の唐松岳の豪雪に負けないように建てられていることがよく解るくらい頑固だ。5分もすると八方ケルン(2035m)が左手に見える。9:30八方池ケルン(2080m)に到着。右手に雪に覆われているので分からないが八方池があるらしい。夏道と雪道を交互に歩く。この辺りから、登山道の傾斜がきつくなり始める。しかしアイゼンは必要ないようだ。登山開始から1時間半で休憩を取り、先をすすむ。

30分程上がると樹林が全くなくなり、急に視界が広がる。真っ白い雪山と空の青が美しい。この目の前のピークを通り越せば唐松岳が見えるのだろう。ストックからピッケルに変える。期待しながら長い雪の斜面を黙々と登り続ける。10:56登山道から外れて丸山ケルン(2430m)が見える。八方ケルンと違って優しい感じがした。赤っぽい石や土のせいだろうか。這松がみられる。さらに頂上をめざす。

自分の居場所の標高が高いほど近隣の山は存在感を表すように立派にそして美しく見える。30分も上がると白馬三山や不帰嶮が威風堂々と主張する。



八方ケルン



下の樺下



八方尾根上部



八方尾根頭を越えると、左手下に唐松岳頂上山荘が見え、目の前が唐松岳頂上（2696m）だ。一旦、唐松沢コルまで下り、ひと上りで12:00登頂。360度のパノラマロケーション。お天気も良く、剣岳、立山連峰、明日上がる予定の頸城駒ヶ岳や雨飾山が遠くに見え、今から下山してその近隣に宿泊することが不思議な感じがした。

静岡県人どこに行っても富士山を探す。K嬢は「今日はやっぱり遠い」と残念がる。しかし、槍ヶ岳は確認できた。暫く俯瞰して、八方尾根頭まで下山し昼食を摂る。

風は冷たい。気温は高いがじっとしていると体感温度が下がる。季節としては一番衣類が難しい。暑さ寒さを両方考えて準備しなければならない。手袋をしていないとジンジンしてくる。そして、大敵は紫外線だ。サングラスで目を守り、日焼け止めで肌を守る。

12:45下山開始。雪道を一気に下る。ザックザックと一歩が大きく豪快に下りる。急斜面だけはピッケルを使いながら慎重に。ズルズルした雪なので滑りやすい。アイゼン履いていても刺さりにくそうな雪質だ。丸山の辺りをCLはショートカットしたようだったが、よく解らない。先月も山スキーに訪れているCLの頭の中には詳細な地図があるようだ。八方池ケルンまで45分で下山。リフト乗り場に14:12分。1時間余りで下った。

予定より早めに下山できたので、宿泊先への移動も楽になった。今年の夏に白馬三山に訪れ、お天気に恵まれず、唐松岳まで足を延ばすことが出来なかった。夏と様相が違い春の唐松岳からの眺望は美しい。

残雪といえども山のシルエットを浮かび上がらせる最高のアイテムと思う。ゴンドラやリフトがあるとこんなに簡単に楽しめるなんて贅沢ですね。有難い事です。CLに感謝。皆さんに感謝です。



唐松岳頂上



残雪山は楽しい